

会 議 記 録		記録者	担当チーム
会 議 名	タウンミーティング（出合校区協議会）		
期 日	令和5年6月27日（火） 午後7時30分～午後9時40分		
場 所	出合コミュニティスポーツセンター		
出席者	校区民	29人（うち女性2人）	
	市幹部	広瀬市長、米田教育長、圓山技監、羽渕部長、世登部長、細田部長	
	特区政策課	安達課長、圓山主査、雲田主事	
	担当チーム（市）	津崎課長、岩佐主幹、森下主幹	
〈意見交換〉			
<p>市道小路頃鹿倉口線の橋の架け替え工事は、12月のスキーシーズンまでに完成し、橋でも対面通行ができるようになる。同市道の急勾配、急カーブなど冬期の大型バスの通行は危険であり、以前からの課題であるが、橋の完成後、今後の構想はあるか。</p> <p>市長</p> <p>冬期間の大型バスの通行は危険であり、上りは市道を通り、下りは県道福岡出合線を通っている。これは長い間の課題であり、これまで市は、何度も検討し、県に相談もしているし、ループ橋のようにできないかなど検討を重ねてきたが解決策が無いのも事実。もちろん、最新の技術を使って莫大な予算を投入すればできないこともないと思うが、かなり難易度の高い工事となるので今後も時間をかけて取り組んでいく。折角の機会なので橋の完成に合わせて、開通式をやってはどうか。地区から声をあげてもらい開通式を開催し、国会議員や県議会議員を来賓に招き、完成を祝うとともに同市道の課題を訴える機会にしてはどうか。</p> <p>開通式の要望は区で検討します。</p> <p>同市道は、大雪の折には普通車でも1台が止まってしまうと後続も止まり数珠つなぎとなることがある。かといって県道福岡出合線も落石や崩落など危険であるため、これを廃線し、市道小路頃鹿倉口線を県道にしてもらえば県に改修もしてもらえるのではないかと。</p> <p>市長</p> <p>出合川を挟んだ両岸に並行して県道が通るめずらしい場所。市道を県道にしてもらっても現在の県道も管理は必要となるが、この路線も落石、崩落など課題の多い路線であり市道として管理するのも困る。この2つの路線は課題が多く国会議員、県議会議員の応援も必要となるので地元の声が届けていきたい。</p>			

地区の公園遊具について、すべり台、鉄棒、ブランコがあるが、ブランコは椅子が取れ枠だけになっており、すべり台も老朽化で危ないので撤去した方がいいという意見もある。子どもの遊び場の整備は地区で対応しなければならないのか。市の補助などはないのか。

市長

地区の遊具は設置した時点では、旧町時代に市が設置したり補助金を交付して設置したりしたのかもしれませんがその後の管理は地区でもらっている。高齢化が進み維持管理も難しくなっているけど子どもを遊ばせてあげたいというのも分かる。市内に160地区あり、多くの地区で遊具をもっているため、全ての対応は難しいが希望する地区には対応できるように研究していきたい。

有機農業について、大きな農園だけでなく家庭菜園でも有機農業が広がっている。私も大谷の有機農業の学校に通っている。養父市で生産された有機農産物の学校給食への使用状況はどうなっているか。

細田部長

昨年からは試行的に有機野菜を学校給食に取り入れているが、有機野菜は量が少なくロット確保や計画的な品目の生産に課題が見つかっている。市としては有機農業の拡大を目指しており、生産が広がることで学校給食の使用料も増えていくと考えている。

教育長

昨年度は、ピーマンやにんじんなど有機野菜10kgを使用しており、今年度も計画している。生産品目、生産時期を生産者と協議しながらできるだけ多く使用できるように取り組んでいく。コメは90%市内産、一部豊岡産が入っているが100%を目指したい。

出合校区で民間スーパーから移動販売のテスト販売することになった。今はまだ大丈夫だが、今後は買い物と通院で困る人が出てくる。移動販売の支援はあるのか。

市長

買い物・通院の問題は約10年前から顕在化していた。市は移動販売の協議会を設置し、移動販売車の購入補助や車検代補助を行ってきたが、個人商店側も後継者不足、高齢化で移動販売する人も減ってきている。このたび、民間スーパーから移動販売がしたいと市にも相談があった。安心見守りネットワークにも入ってもらえたようである。移動販売する商店も減ってきている中なので、できるだけ多くのエリアをカバーできるよう持続していきたい。

通院の移動手段も課題となっている。小さな拠点づくりの中でモデルとして移動手段をどうするのか検討、実証していきたい。全て行政で行うことも難しいかもしれないので自治協でのカバーも検討してもらえれば。例えば買い物支援でいえば、建屋自治協では、自治協内にミニコンビニをやっている。地域にあったサポートを考えてもらえれば。

こども・夢・えがお部の全ての妊婦への面談実施 95%→98%となっているが 100%にすべきではないか。

また、ライフラインの確保はどこが責任を持つのか。基幹道路の除雪は市がしてくれているが、村中の市道は除雪してくれないので区民が交代でやっている。除雪路線に認定されれば誰かが請け負ってやってもらえるが認定されなければ燃料代も委託金も出ない。除雪路線に認定されるかされていないで住民負担に大きな差がでている。除雪路線に認定してもらえないか。

世登部長

妊婦面談 100%の件ですが、母子健康手帳を渡す時に面談しているので 100%になっていると思うが確認させてください。

(調査)

98%となっているのは、里帰り出産や早産で入院中の方には面談が不可能な場合が2%程度あるため、これらを除いて100%となるよう目標を変更します。

圓山技監

市道の管理はしていくが、市道延長 514 kmのうち、除雪路線は約 300 kmとなっている。除雪路線は一定の基準をもち、市道の幅員や通行量等により選定しているのでご理解いただきたい。

市長

市道の管理について、傷んだものは市が修繕をするが、日常の維持管理のうち、草刈りや泥の清掃、除雪などは住んでいる人をお願いしないといけない部分もある。一定の時間までに除雪する早朝除雪を行っており、時間的制約もあるのでどうしても必要なところを除雪路線として認定している。

本日の参加者は、タウンミーティングで質問し、市の回答を聞けるが、本日の参加者以外にもこのやりとりを知ってもらい、次の参加につなげたいので議事録をフィードバックしてもらえないか。

安達課長

議事録をお渡しします。

国全体で人口は減っているのに増えている地域もある。市内でも同じである。人は便利な場所に住もうとする。買い物や通院に距離があり、除雪も大変な不便な地からは若い人が出て行っているのが実情。住んでいる人が住みよい環境を作るのが大事ではないか。

市長

不便というと失礼だが雪が多い地域には多くの予算をかけており、充分ではないかもしれないが不便さを解消してきていることも事実である。その中で行政の届かない部分を住民の

みなさんにも一定の部分をお願いしたいと申し上げてきているところ。いずれにしても住んでいる人が誇りをもって住むことが必要。厳しいこともあるが笑顔で楽しんで生活することで子どもも住んでくれるかもしれないので、誇りを持って住むことが大事だと考えている。